

日本畜産学会 第127回大会
公開シンポジウム

2030年に向けた これからの畜産学の方向性と 最先端技術の展開

**参加無料
申込不要**

2020年3月28日(土)9:00~12:00

会場 京都大学農学部総合館 W100教室

動物を家畜化して飼養する…「畜産」の技術によって、人類は良質な動物性たんぱく質を安定して得ることが可能になりました。現在、世界を見渡せば、発展途上国では経済発展にともない畜産物の消費が急速に増加し、需要が拡大しています。一方、先進国を中心に、畜産のもたらす環境問題や動物福祉問題、さらに穀物を人間と家畜が取り合う食糧問題など、畜産の功罪に関する議論が起こっています。

このような国内外の状況の中、わが国の畜産はどのような方向に向かうべきでしょうか。本シンポジウムでは、わが国の畜産学のフロントランナーとして活躍されてきた4名の研究者を招き、それぞれの専門分野における最先端技術をわかりやすく解説していただくとともに、これからの10年間に畜産学はどのように発展し、どのように畜産業に貢献するのかについて話していただきます。

プログラム

9:05~9:35

マンモス復活プロジェクトから考える
「応用科学としての動物生殖生物学」の将来展望

松本 和也 (近畿大学生物理工学部 教授)

9:35~10:05

環境調和をみずえる家畜栄養学の展開
：温暖化ガスの低減に向けて

小林 泰男 (北海道大学大学院農学研究院 教授)

10:15~10:45

家畜育種におけるゲノム情報の活用とその展望

増田 豊 (ジョージア大学畜産学部 常勤研究員)

10:45~11:15

基盤科学・畜産学に裏打ちされた
2030年の畜産業の展望

眞鍋 昇 (大阪国際大学人間科学部教授)

11:15~11:50

総合討論

座長 入江 正和 (独立行政法人家畜改良センター理事長)

主催：公益社団法人 日本畜産学会
共催：日本学術会議食糧科学委員会畜産学分科会
日本畜産学アカデミー

本公開シンポジウムは伊藤記念財団の助成を受けております

